

走った後の達成感

増元昂太郎さん

(県営住宅)



毎年恒例となりました「栃木県都市対抗駅伝競走大会」が1月30日に開催され、上三川町から4人が参加しました。その中で今年初めて選手に選ばれ、参加した増元昂太郎さん（明治中2年）に話を伺いました。

都市対抗駅伝競走大会は、昨年まで宇都宮市、日光市間で開催されていましたが、今大会から宇都宮市、栃木市間にコースが変更になりました。第4区、中学生男子区間をまかされた増元さんは、「選手に選ばれた時は、少し不安と緊張がありました。当日はあまり緊張せず、区間の中で上位になることを考えていました。思うように走ることができたと思います。」と当日冷静に状況を把握していたことが伺え

今月の輝ける星

ました。また、その理由として、「初めてこの大会を走る私に、先輩たちが声をたくさんかけてくれたことで、リラックスできたのだと思います。」と話をしていました。

増元さんは、中学生になった時、兄の影響で陸上競技を始め、顧問の先生の勧めで、長距離という種目を専門に今まで続けてきました。この種目の良いところは、「走り終わった時の達成感が気持ちいい。」ことだそうです。

昨年の主な成績を聞いたところ、春には中学生の大会で、宇河地区1位、12月に開催されたしらさぎマラソン大会では、中学男子の部3位など好成绩を残してきました。今後の目標は、「中学生の残り少ない大会で、県大会で優勝し関東大会に出場したいです。」と力強く語ってくれました。



都市対抗駅伝競走大会で快走



広報紙で見る上三川町50年

広報かみのかわの表紙がカラーに！

最近、皆さんが毎日目にする新聞紙に、カラー写真が掲載されていることに違和感を感じなくなりました。10年くらい前までは、新聞紙はモノクロ（白黒）というイメージを持つ人も、多かったのではないのでしょうか。

「広報かみのかわ」が、初めて表紙にカラー写真を掲載したのは、平成7年1月号です。この時は、まだ1年に1回のみカラーで発行されていましたが、翌年の4月号から毎月表紙がカラーに変わりました。

これは、印刷技術が発達し、カラーでもモノクロでも印刷費が、大して変わらなくなってきたことや、表紙に子どもたちなどの顔の写真を多く扱うようになり、モノクロよりもカラーの方が映えるといった理由からです。「では、全ページカラーにしたら？」という意見もあると思います。しかし、全ページカラーにすると、紙面にメリハリがつかなくなるという欠点もでてきます。

これからの季節、町中が花や木々の緑で色鮮やかに染まります。そんな季節感を表紙のカラー写真で表現していきたいと思えます。



初めてカラーで掲載された写真は、鬼怒川から見た朝日でした